

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0041号
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年9月25日

自民党、派閥政治復活!?

今世紀最大の悪夢・福田政権誕生

新首相の本質を暴く!!



辞任会見する安倍首相

「夢くも散った」戦後レジームからの脱却
 十二日の昼下がり、遅い昼食を摂るつと、関越道の上里サービスエリアに立ち寄ったところ、テレビの前に黒山の人だかりができていた。良く言えば好奇心の旺盛な、悪く言えば野次馬根性が強い私はテレビから流れる「安倍総理突然の辞任」のテロップを見て、思わず「エッ！」の一言、あとは絶句であった。

これまで安倍首相の政策や言動には是々非々の立場で論じてきたが、内心この若い首相に期待するところは大きかった。それだけに突然の辞任は残念でならないし、首相の所信表明に対する各党の代表質問を直前に控えての辞任はマスコミ各社が指摘する敵前逃亡との誇りは免れないところであると思う。しかし、マスコミに安倍首相を罵る資格はあるのだろうか、ついこの間までは「何故辞めないのか、安倍は辞める」と大合唱していたではないか、辞めれば辞めたで「何故辞めるのだ、無責任だ」と揃いも揃って安倍

就任直後は高い支持率を誇っていたが、日が経つにつれてその数字は下降線を辿るばかりであった。そんな中で、歴代総理が為し得なかつたことをやってのけたことは紛れも無い事実であり、多少の疵瑕を除けば称賛に値する。内閣の中で、格下であった防衛庁を防衛省に昇格させたこと、GHQの置き土産であった教育基本法とその関連法の改正、小泉前首相の降板により中途半端になっていた公務員制度改革の徹底などは、素直に評価して然るべきである。

一方で、日本の保守層を落

本命麻生の誤算と媚支那勢力の台頭
 安倍首相の突然の辞任を受けて、自民党は直ちに総裁選モードへと突入していった。

十三日午前中までは麻生幹事長、福田元官房長官、谷垣元財務相、額賀財務相が意欲を見せていた。中でも麻生は大本命と目されていた。マスコミの報道も麻生を軸に総裁選が展開していくという論調で占められていた。昨年十月当時の自民党政調会長・中川昭一が、日本の核保有論議に言及した際、中川の発言を擁護したのは麻生幹事長（当時は外相）である。麻生は所謂

胆させたことも否めない事実である。就任以来一度も靖国に御座す神々に額づき、感謝と哀悼の誠を捧げたことは無かつた。官房長官時代には「次の総理も、その次の総理も靖国神社に参拝する人が相応しい」と言い切り、自身も毎年のように行なっていた靖国参拝を取り止めてしまったことは痛恨の極みである。

秋季例大祭では是非とも参拝して欲しいと願っていたがその夢は儚くも叶わなかつた。ついに総理在任中の参拝は成し遂げられず、突然の辞任となつてしまつた。

平成十九年九月十二日午後二時「美しい国」と「戦後レジームからの脱却」が雲散霧消した瞬間だつた。

ここまでは麻生の対立候補にすぎなかつた福田は、所属する町村派の実質オーナーである森元首相の命を受け、山崎元副総裁、古賀元幹事長、谷垣元財務相と会談し、支持を取り付けた。山崎、古賀、谷垣の三人は、云わずと知れた媚支那勢力の旗頭である。会談の席上、三人は「アジア



売国四天王の公開談合現場

外交の重視」を突きつけた。三人の言うアジアとは言うまでもなく支那、韓国、北朝鮮のことである。山崎や古賀や谷垣は日本の主要都市に向けてミサイルを配備している支那と、竹島を不法占拠している韓国、そして我が同胞を拉致監禁している北朝鮮に阿る外交を行なえと言っているのである。勿論福田が同調したことは言わずもがなである。これによって谷垣は出馬を取り止めて福田支持に方向転回したのである。谷垣は出馬をしても勝算がないどころか最下位の憂き目が大きい。谷垣の本心は、今回は福田を支持して次ぎの総裁選に備えようということである。しかし特定アジアに

諂う内閣が二代続いては、国民には甚だ迷惑な話である。この会談を境に、麻生包囲網が構築され、総裁選の風向きは一気に麻生本命から福田有利へと変っていくのであった。麻生にとつて森や山崎や古賀のような魑魅魍魎が跋扈するとは思ってもないことであつた。

出馬に意欲を見せていた額賀は十三日昼、所属する津島派の総会で出馬表明をしたが、勝ち馬に乗ろうとする心理から福田支持を模索していた同派幹部らが強い難色を示したことに、派内をまとめることができず出馬を断念し、都内のホテルで福田と会い支持を伝えた。昨年のポスト小泉を決める総裁選でも出馬を表明しておきながら取り止めた経緯から図らずも政局のなさを露呈してしまつた。十三日から十四日朝にかけて伊吹、高村、二階の各派が相次いで福田支持を表明し、完全に麻生包囲網が確立した。政策や主義に関係なく己自身と、その派閥の利益だけを考へての「福田支持」は派閥談合政治の復活と言われても返す言葉がないだろう。小泉前首相が破壊した筈の派閥は息を吹き返し、九つある自民党の派閥のうち麻生派を除く八つの派閥が福田支持を鮮明にし、総裁選の大勢は決した。今後の興味は麻生がどこまで意地を見せられるかに絞られた。時を前後して、猪口邦子や佐

藤ゆかりは、他の小泉チルドレンとともに小泉出馬を模索していた。約三十名の署名を集めて小泉の秘書官・飯島勲を通じて出馬を打診したが、本人が「百パーセント出ない」と明言したため頓挫し、これまた福田支持へと取舵をいっぱいにとつたのであつた。

結局のところ、大山鳴動して出てきたのは麻生と福田だけだつた。一年前に自民党議員の大半が安倍晋三を担いだのは、小泉前首相の後押しがあり、国民的人気を誇る安倍を首相にすれば、選挙に勝てるという打算からであり、それ以上の何ものでもなかつたのだ。けつして首相の「戦後レジームからの脱却」という理念を本気で支持していたのではない。だからこそ選挙に勝てないとなると、安倍だろうが誰だろうが切つて捨て、談合によつて福田のような媚支那、媚韓国、媚北朝鮮の売国奴を恥も外聞もなく内閣総理大臣にしようとするのである。麻生が、墮落しきつた自民党の体質を読み切れなかつたことと、郵政造反組の象徴である平沼起夫衆院議員を無条件で復党させようとしたことにより、小泉前首相の怒りを買ひ、福田支持に向わせたことは、大きな過ちと誤算であつた。何れにしても今回の派閥領袖の行動は国家と国民の利益を無視した派閥談合政治そのものである。

自民党は何処へ、

二十三日午後、投開票された自民党総裁選は、福田康夫元官房長官が麻生幹事長を破り、第二十二代総裁に選ばれた。両者の得票数は福田三三〇票、麻生一九七票、無効一票だつた。福田は二十五日に第九十一代内閣総理大臣に指名され、同日中に新内閣を発足させる。

一方、他の八派閥が雪崩を打つて福田支持を表明する中、僅か十六人の弱小派閥から出馬した麻生の獲得した一九七票は想像以上の重みがあり、新総裁は喉元に匕首を突きつけられた党運営を余儀なくされるだろう。麻生の大善戦によつて、日本の保守の矜持は辛うじて保たれたのである。そういう意味で麻生の健闘は絶賛に値すると言える。本号がお手元に届く頃には、福田内閣の顔ぶれが明らかになつているだろうが、新大臣に誰がなるかが、自民党がどうなるかが知つたことではない。しかし日本の将来を見据え、子や孫に誇れる日本を残そうと考へた時、福田には一刻も早く退陣して貰わなければならない。福田がどんな人物なのか、釈迦に説法となつてしまつが、敢えて列記してみた。

福田は、天皇制の崩壊を企む女系天皇容認論者である。

福田は、支那が頼りにする現役自民党議員の順位で河野洋平に続いて堂々の第二位である。

本格左翼政権誕生

福田は、三年前の上海領事館の自殺問題を握り潰そうと画策した張本人である。

福田は、靖国神社を形骸化する国立追悼施設建設を推進し、政治家の靖国参拝には「中国や韓国のことも考えなければいけない」と発言した男である。

福田は、帰国した拉致被害者の蓮池薫氏夫妻、地村保志氏夫妻、曾我ひとみさんを「北朝鮮に帰すべきだ」と主張した血も涙も無い男である。

福田の冷血漢ぶりを伝える書物の一部を是非読んで戴きたい。光文社発行「家族」より

ハツイ(蓮池薫氏の母)はその時、福田康夫官房長官に食つてかかつた「こんな紙切れ一枚ではなく、みんなのいるところで発表したらどうなんですか」福田は「うるさい！黙りなさい！あんたのところは生きていますんでしょ」と言い放つた。

新潮社発行「奪還」より

「黙つて聞きなさい、あなた方の家族は生きていますのだから」福田官房長官はそう言つて、両腕で我々を押さえつけるような仕草をしました。まるで何故自分に感謝しないのか、とでも言いたげな口ぶりでした。

「全身全霊で職責を果たす覚悟だ」福田の言葉がテレビから流れる。日本に本格左翼政権が誕生した夜、独り断腸の思いで酒を飲む。 編集人・戸出蒼流